

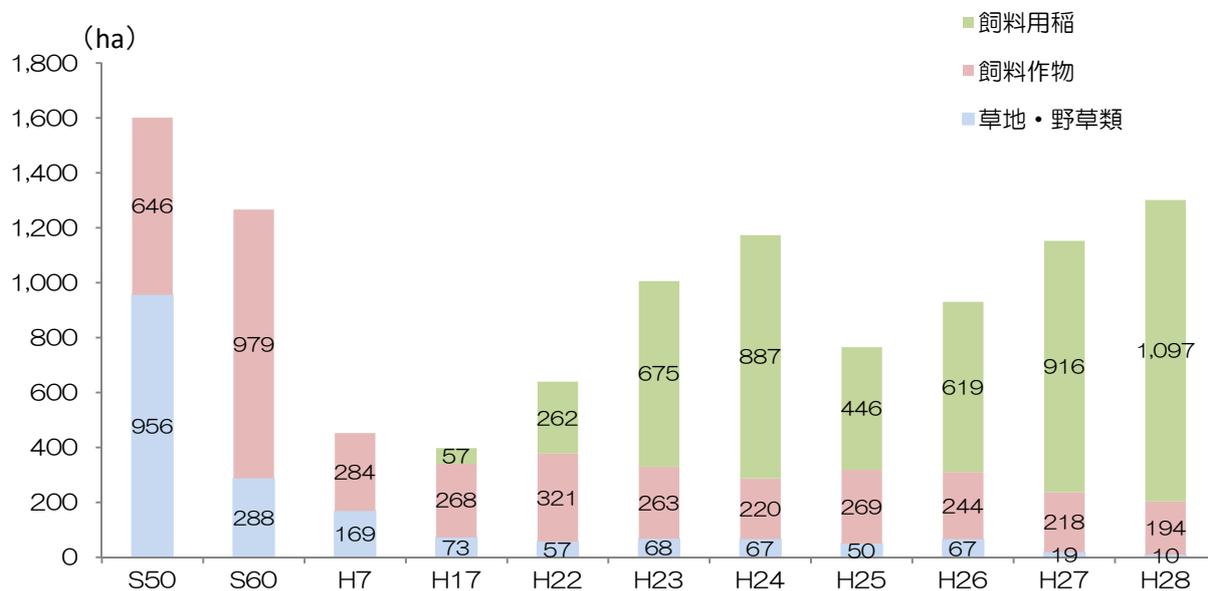
# 自給飼料

水田化率の高い本県では、水田を活用した飼料生産が必要となります。

近年、麦・大豆の定着していない地域を中心に、水稻を飼料として利用する稲WCS（※1）や飼料用米の取組が拡大しています。これらの取組は、耕種農家が米の生産調整として稲WCSや飼料用米を作付けし、コントラクター（※2）等が収穫調製を行い、畜産農家が利用するという『耕畜連携』により実施されています。

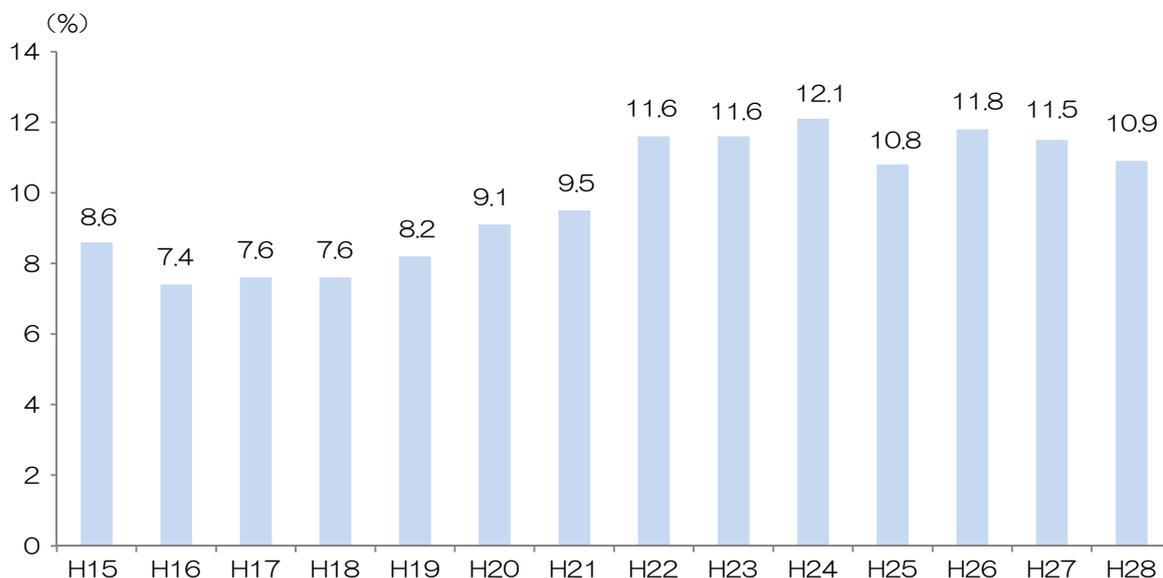
※1：稲WCS（ホールクローブサイレージ）：稲発酵粗飼料のこと。稲の子実が成熟する前に、子実と茎葉を同時に収穫し、発酵させて飼料とするもの。  
 ※2：コントラクター：畜産農家や耕種農家（水稻、野菜等を栽培する農家）から、飼料の収穫・調製作業を請け負う組織（飼料生産作業受託組織）

## （１）飼料用作物の作付面積の推移



（資料：県畜産課調べ）

## （２）飼料自給率の推移



（資料：県畜産課調べ）

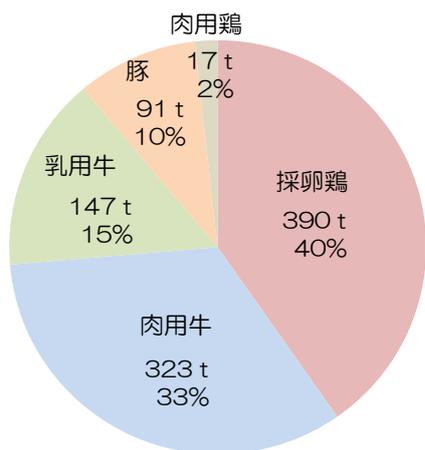
### (3) 稲WCSの取組



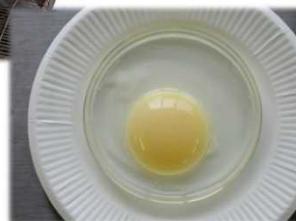
汎用型飼料収穫機を利用した  
コントラクターによる稲WCSの収穫

### (4) 飼料用米の取組

畜種別利用状況 (H29)



飼料用米の採卵鶏への給与



飼料用米を多給して生産した鶏卵

(資料：県畜産課調べ)



(資料：県畜産課調べ)